



木を植える

教育長 津野庄一郎

5月9日(土)、グリーンパークあらかわ総合運動公園で、第24回「活樹を通じ、自然を学ぶ日」の事業が開催され、関川村緑の少年団員・指導員・事務局の26名が参加しました。心配された雨もあがり、子どもたちは植樹をしたり、カエデの葉を観察したり、シイタケの駒打ちをしたりしました。午後からは村民会館で「春のフラワー作戦」と称し、プランターに花の苗を植えて村内の福祉施設等に届けました。

参加した子どもたちのノートには、「シイタケの駒打ちが楽しかったです。」「葉っぱに毛があることが分かりました。」「心を込めて花を植えました。」「おばあちゃんたちにお花をあげるときに緊張しました。」などの記述がありました。

この事業は、平成8(1996)年から始まり、参加人数は延べ6100名を超え、植栽本数も6200本と、「22世紀に緑の遺産を贈る県民運動・にいがた緑の百年物語」の一環として着実な歩みを続けています。当村も村上市内の小学生、山北や朝日の緑の少年団とともに毎年参加し、自然を学び、ふるさとを大切にする心を育てています。

「人の世に三智あり」(島崎藤村)と言います。学んで得る智。人と交わって得る智。体験によって得る智。関川緑の少年団の活動は、まさにこれを体現している取組であると子どもたちの笑顔を見て実感しました。「ふるさと関川村を忘れない。」そんな価値ある学びをこれからも大事にしていきたいものです。



<【写真】上：植栽、中：シイタケの駒打ち、下：花の苗植えの様子>